



武庫の宝

令和8年 10月号



三田市立武庫小学校長 大向 勲

例年になく秋雨が続いた9月。全国各地の豪雨による災害が報じられるたびに、いつ私たちも対峙する時がきてもよいよう備えなければならないという思いになりました。

そんな9月でしたが、市内の多くの小学校では自然学校や修学旅行が実施されています。本校も自然学校は一足先に7月6日～10日に終え、修学旅行は今日10月1日から1泊2日で「加西の鶉野飛行場跡」「奈良の東大寺」「三重の鈴鹿サーキット」に行ってきます。

「広島じゃないの?」と思われた方が6年生の保護者様以外には多くいらっしゃるのではないのでしょうか。武庫小学校では今年から修学旅行の行先を広島から上記の3か所に変更しました。(ちなみに自然学校も今年、行先を「淡路島」から「加東市」に変更しました)子どもたちにとってこのふたつの行事は、小学校生活の中でも一二を争う「思い出」となる行事です。学校では「集団宿泊的行事」とよんでいます。この「宿泊」に大きな意味があるのは間違いないでしょう。そして仲間と一緒に「集団」として過ごすこの行事は普段の学校生活ではなかなか感じるできないたくさんの「価値」を見つけることができます。ですから本校では、より誰もが参加することができやすい集団宿泊的行事を目指し、今回の変更「アップデート」しました。

ヒトに対してのアップデートとは「知識・考え方・行動様式を新しい状況に合わせて更新すること」です。目まぐるしく変化が進む今、学校は様々な視点でアップデートが求められています。それは国レベルのこともあれば、学校独自のこともあるでしょう。今までわたしたちが受けてきた教育での数々の「常識」が問われているとも言えます。

これまで修学旅行では平和学習の集大成として「広島」の地に立ち、「ヒロシマ」を学ぶことを続けてきました。その体験はかけがえのないものであるのは間違いありません。しかし別の形で平和を学ぶことで、より誰もが参加しやすい修学旅行になるのであればそこにチャレンジすることには大きな価値があるはずです。自然学校でも行先を変え、普段ならまず歩くことのない長距離をみんなで歩き切りました。これまでの自然学校では取り組んでこなかった新しいプログラムでした。

9月30日、全校集会で6年生は折り鶴集会で全校生と折って作成した千羽鶴を披露しました。その光景は例年と変わらないものでありましたが、子どもたちにとっての修学旅行は間違いなくアップデートしています。そしてその姿を5年生以下が感じ、学校として成長していくことを楽しみにしています

